

「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく
減災に係る取組方針に対する
各機関の取組事例

平成30年7月30日

宮川外大規模氾濫減災協議会

伊勢市

勢田川流域等浸水対策協議会の設立

- ・平成29年10月台風第21号により勢田川、桧尻川、汁谷川流域は甚大な被害を受けたことにより、国土交通省、三重県、伊勢市は「勢田川流域等浸水対策協議会」設立（平成30年1月26日）。
- ・浸水被害軽減のためのハード対策、ソフト対策をより効果的に推進する「勢田川流域等浸水対策実行計画」を策定（平成30年6月19日）。



勢田川流域等浸水対策実行計画より

浸水被害軽減対策

2 浸水被害軽減対策

浸水被害軽減のため、勢田川、椋尻川流域の河川整備や下水道整備等の考えられる浸水対策を検討し、整備や施策の早期効果の発現や実現性(実施可能時期)等を考慮し、短期・中長期の計画に基づき、関係機関(伊勢市、三重県、国土交通省)が連携してハード・ソフト対策を一体的に取り組みます。

(1) 浸水被害軽減対策のメニュー



(2) 主なハード対策

緊急的な堤防かさ上げ

勢田川では、平成29年10月(台風第21号)洪水で河川からの氾濫が発生したJR参宮線勢田橋梁部付近と北新橋右岸下流(平成30年6月完成済)において、緊急的に堤防かさ上げを実施します。



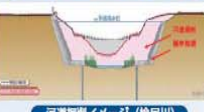
特殊堤防設置イメージ (JR参宮線勢田川橋梁部付近)



特殊堤防設置状況 (北新橋右岸下流)

河道掘削

勢田川・椋尻川では、河川の水位を下げるために、河道断面を増やす掘削を実施します。



河道掘削イメージ (椋尻川)

排水機場ポンプ増強

家屋浸水被害の防止のため、下水道整備等と事業調整を図り、椋尻川排水機場ポンプ、勢田川排水機場ポンプの増強を実施します。

逆流防止フラップ弁設置

勢田川からの逆流による浸水を防ぐために、排水管等の逆流防止フラップ弁設置を行います。

下水道整備

雨水排水不良による浸水を防ぐために、優先度の高い地域から雨水ポンプの増強や雨水排水路の整備を実施します。

流域における総合治水対策

河川整備や下水道整備等に加え、各流域の流出抑制に向けた保水機能・遊水機能を確保する対策を検討します。



椋尻川排水機場ポンプ増強



逆流防止フラップ弁設置予定の排水管

(3) 主なソフト対策

危機管理型水位計の設置

河川水位情報をリアルタイムに把握でき、避難準備等に活用できるように危機管理型水位計を設置します(国は勢田川に平成29年度末に設置済)。また、危機管理型水位計運用システムにより、水位情報の提供を行います。



危機管理型水位計

洪水浸水想定区域の説明会の実施

洪水浸水想定区域の説明会およびワークショップを開催し、住民自らの的確な避難判断につなげます。



洪水浸水想定区域説明会の様子

ハザードマップの更新

指定区間(県)の洪水浸水想定区域図を作成し、ハザードマップの更新を行います。

伊勢市防災大学の開催

伊勢市防災大学を開催し、市民の防災知識を深め、防災に対する意識高揚を図ります。



伊勢市防災大学の開催の様子

伊勢市防災コーディネーターの認定

防災士の資格を持つ市民が伊勢市防災コーディネーターとして、地域の防災講習会やワークショップのスタッフとして参加し、防災意識の高揚に向け、今後も継続して実施します。



防災コーディネーター研修を受ける様子

防災啓発体制、防災教育の強化

防災マネージャー及び防災アドバイザーの体制で、自治会やまちづくり協議会における防災講習・訓練を実施します。防災教育では、国土交通省、気象庁、京都大学、まちづくり協議会などが連携して、講習会やワークショップを開催します。

○主なハード対策

- ・河道掘削
- ・排水機場ポンプ増強
- ・逆流防止フラップ弁設置
- ・下水道整備
- ・流域における総合治水対策

○主なソフト対策

- ・危機管理型水位計の設置
- ・洪水浸水想定区域の説明会の実施
- ・ハザードマップの更新
- ・伊勢市防災大学の開催
- ・伊勢市防災コーディネーターの認定
- ・防災啓発体制、防災教育の強化

多氣町

多気町における取り組み

◆防災マップの作製・配布

- ・想定最大浸水区域および浸水深を記載した防災マップを作成し、町内各戸(約5,000世帯)へ配布
- ・あわせて、土砂災害警戒区域も記載
- ・裏面には、地震を含めた防災・減災に関する各種情報を記載



大台町

避難確保計画策定と訓練の実施について

大台町

1. 要配慮者利用施設への説明会の実施

- 平成29年9月8日(金)
施設の施設長等への説明会を実施

内容

- ①土砂災害防止法の改正による避難確保計画を作成する義務
- ②土砂災害を想定した避難訓練の実施義務
- ③利用施設の災害時相互応援

3. 計画の提出状況(7月10日現在)

社会福祉施設等	9施設(75%)
学校等	7施設(100%)

未提出の施設には提出を促すとともに、提出してもらった施設には訓練を実施してもらう

2. 対象となる施設

土砂災害警戒区域内にあって、地域防災計画に位置付けられている施設

- ・社会福祉施設等 12施設
- ・学校・保育園等 7施設



【今年目標】

- ①計画の作成率を100%
- ②避難訓練を年1回以上実施
- ③宮川福祉施設組合での訓練に役場も協力

【今後の目標】

全ての施設で訓練を実施

施設のための訓練ではなく、地元消防団や地区自主防災組織等と協力しての訓練を実施

休日や夜間を想定した訓練の実施

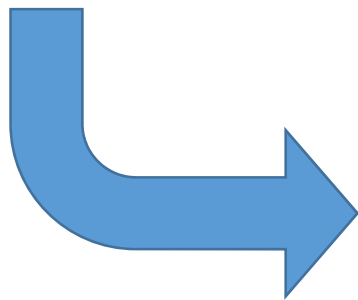


玉城町

「玉城町の取り組み」



外城田川 浚渫



外城田川流域治水整備計画検討

平成30年度

- 1 資料収集
- 2 現地調査
- 3 流域特性の把握
- 4 排水機能の評価
- 5 浸水原因の推定
- 6 浸水対策の検討
- 7 段階整備の検討

平成31年度

- 1 浸水想定区域図の作成
- 2 ハザードマップの作成

取組①

防災計画の見直し

市町タイムラインの作成

取組②

防災・まちづくりの研修会

紀宝町への視察

取組③

自主防災組織の取組支援

防災技術指導員の配置

取組④

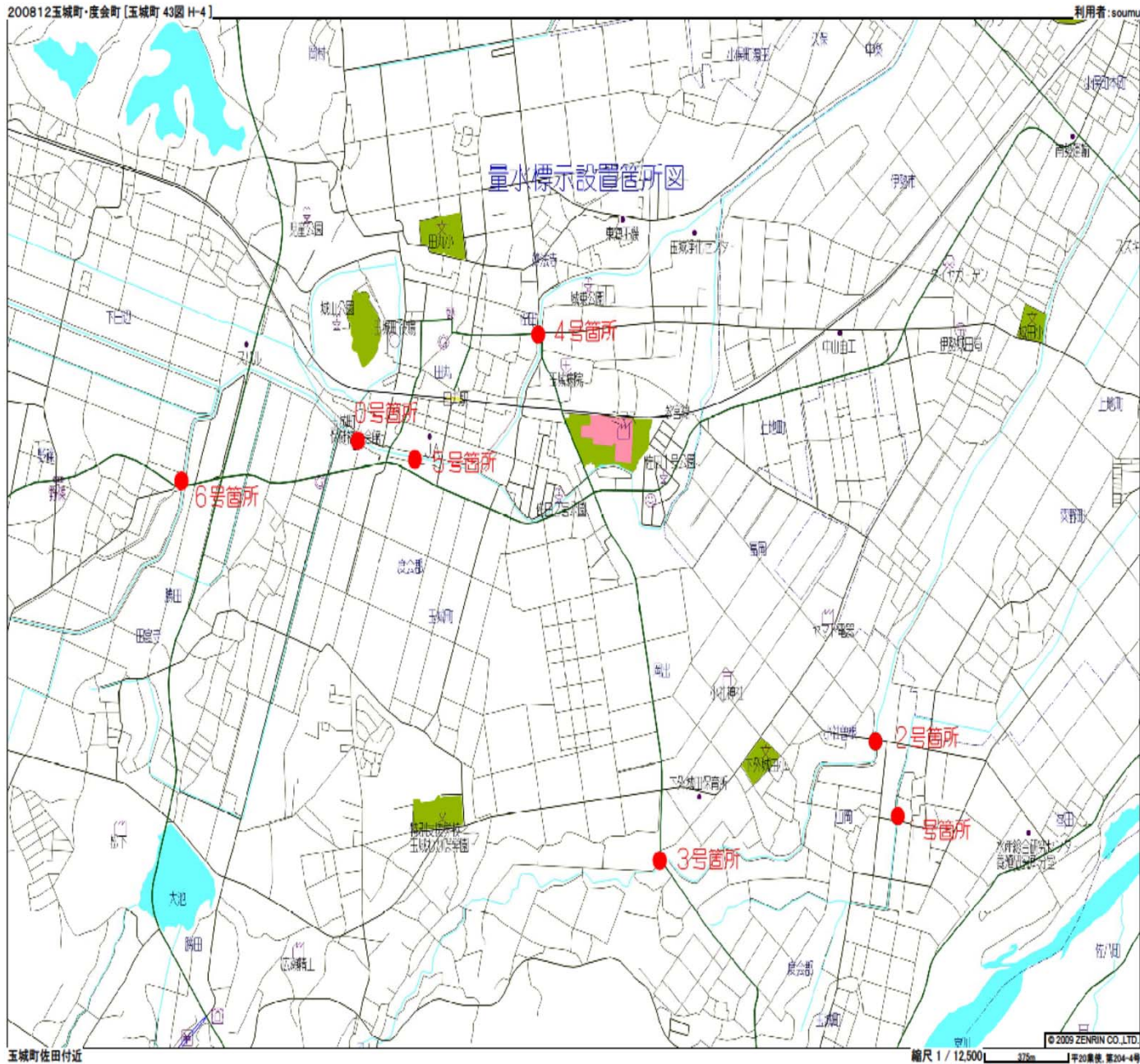
住民への情報提供

河川量水標の設置 (4河川 7箇所)

危機管理型水位計の設置 (1箇所)

河川監視カメラの設置 (2河川 3箇所)

水位表示の設置



水位表示の設置



菱川 山岡地内

外城田川 佐田地内



公衆無線LANの設置



各小中学校 体育館に設置



ため池ハザードマップ(玉城町ホームページ)



The image shows two browser windows. The left window displays the Tamaki Town homepage (https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/home.html) with a navigation menu including '暮らしのガイド', '健康・福祉', '子育て・教育', and '防災・防犯'. The right window shows a dedicated page for hazard maps (https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/bosaibohan/bosai/index.html) titled '玉城町ため池ハザードマップ'. This page includes a list of hazard maps for various ponds, categorized by year (Heisei 28 and Heisei 29).

玉城町ため池ハザードマップ

玉城町ため池ハザードマップを作成しました。
ハザードマップの活用方法等についてはこちら [\(725KB\)](#) をご覧ください。

- ▶ [ハザードマップ\(原新池\) \(3.17MB\)](#)
- ▶ [ハザードマップ\(吹池\) \(3.06MB\)](#)
- ▶ [ハザードマップ\(里山池\) \(2.91MB\)](#)
- ▶ [ハザードマップ\(大池\) \(2.76MB\)](#)
- ▶ [ハザードマップ\(汗谷池\) \(3.18MB\)](#)
- ▶ [ハザードマップ\(中角池\) \(2.94MB\)](#)

平成28年

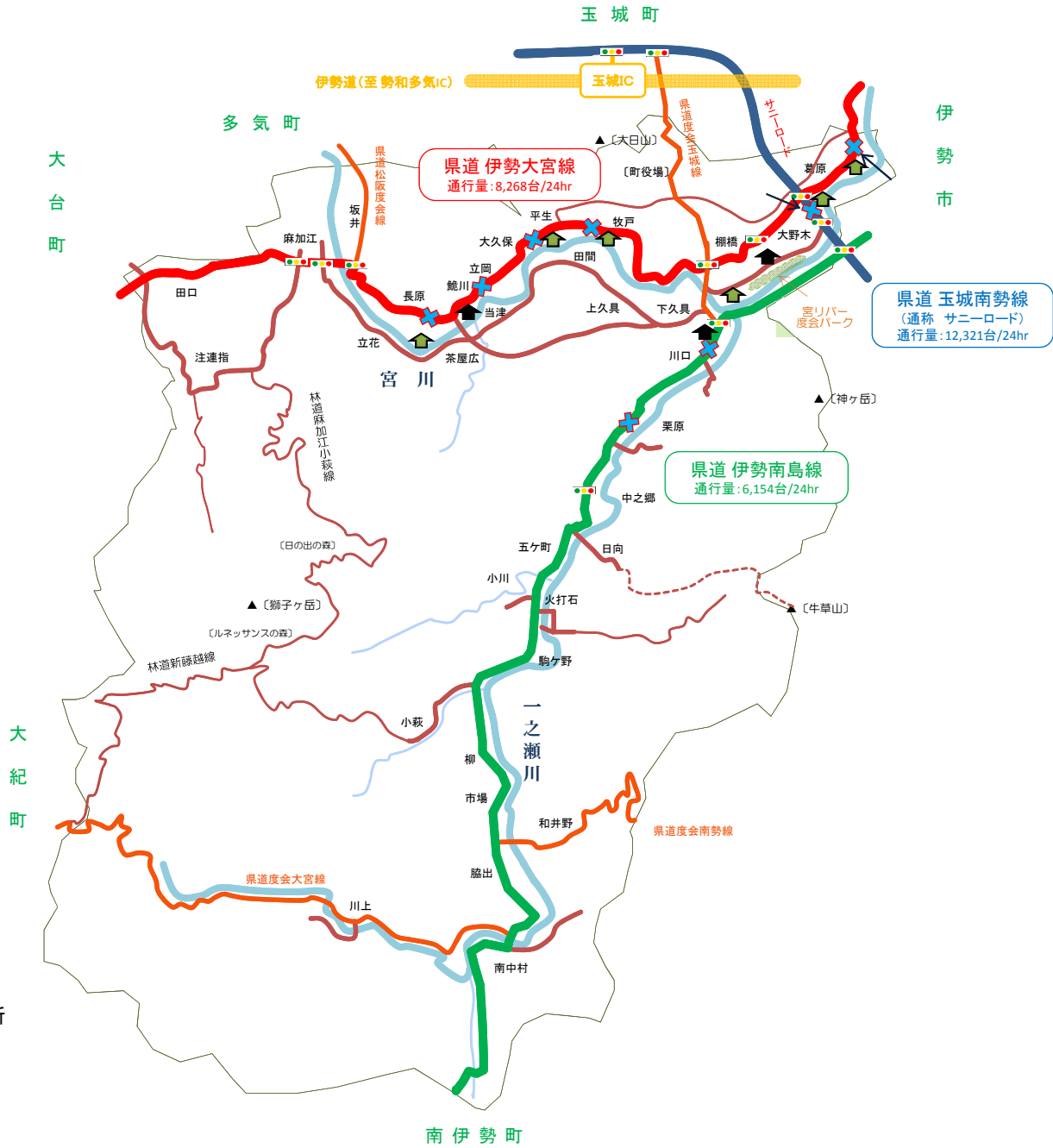
- ▶ [世古池 \(2421KB\)](#)
- ▶ [吉祥寺池 \(2459KB\)](#)
- ▶ [牛尾崎池 \(2652KB\)](#)
- ▶ [ヒジヤ池 \(3851KB\)](#)
- ▶ [奥池 \(3308KB\)](#)
- ▶ [押野池 \(2979KB\)](#)

平成29年

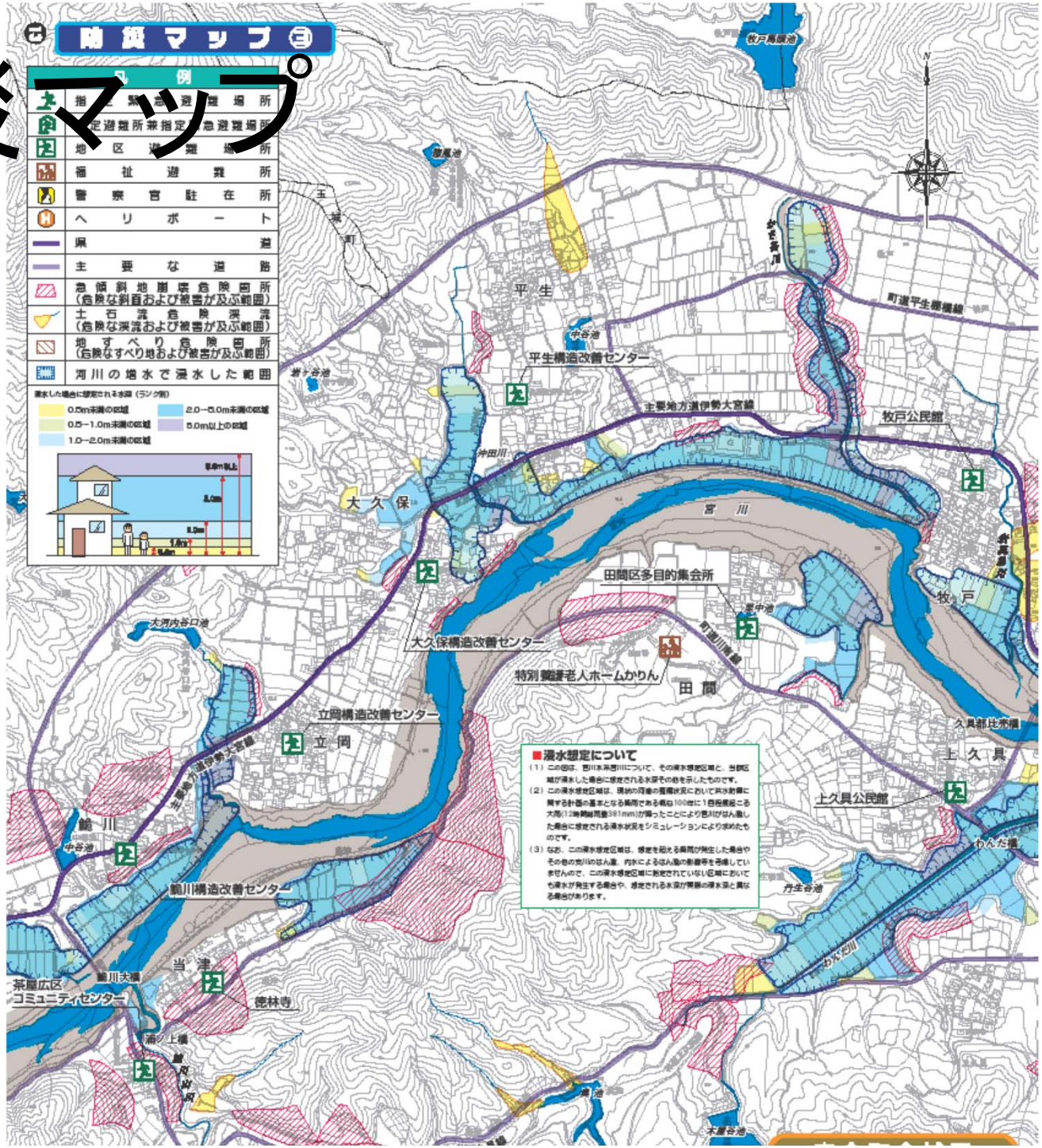
- ▶ [本田池 \(2138KB\)](#)
- ▶ [新池\(坂本\) \(2143KB\)](#)
- ▶ [垂神池 \(2944KB\)](#)

度会町

度会町における取組



防災マップ



現地での出水状況の確認



大紀町

「大紀町防災の日」避難訓練

1. 訓練の目的

いつ発生してもおかしくないと言われる南海トラフを震源とした巨大地震・津波から住民の命を守るため、自主防災組織や防災関係機関等と連携しながら避難訓練を実施することにより、常日頃からの災害に対する心構えを養うことで防災意識の高揚を図り、災害発生時における迅速かつ効果的な応急対策活動体制の確立を目的とする。

2. 訓練の日時

毎年 12月7日

3. 訓練の場所

大紀町全域

○海岸地区(錦地区)

地震津波を想定した高台避難所への避難訓練

○山間地区(七保地区・滝原地区・阿曾地区・柏崎地区・大内山地区)

地震を想定した屋外及び最寄りの避難所への避難訓練

「夜間避難訓練」

巨大地震による大津波を想定した避難所への避難訓練

1. 訓練の目的

いつ発生してもおかしくないと言われる南海トラフを震源とした巨大地震の発生により、大きな揺れや大津波から住民の生命を守るため、日頃から避難訓練を実施することにより、災害に対する心構えを養うことで防災意識の高揚を図る。また、昼夜を問わず発生する大地震に備えるため、夜間の発生を想定した避難訓練を実施することにより、夜間避難における安全かつ効果的な避難行動の確立を図るものとする

2. 訓練の日時

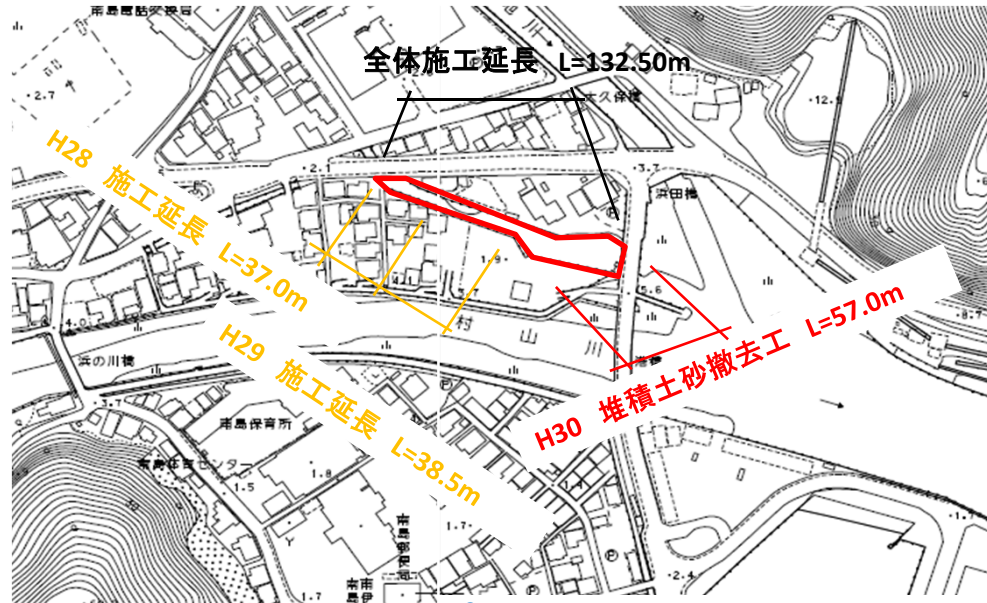
毎年 10月頃 午後 7時 00分～

3. 訓練の場所

大紀町 錦 地域

南伊勢町

●町単独事業による堆積土砂撤去（建設課所管）



before



after



H30 施工予定箇所(下流側)

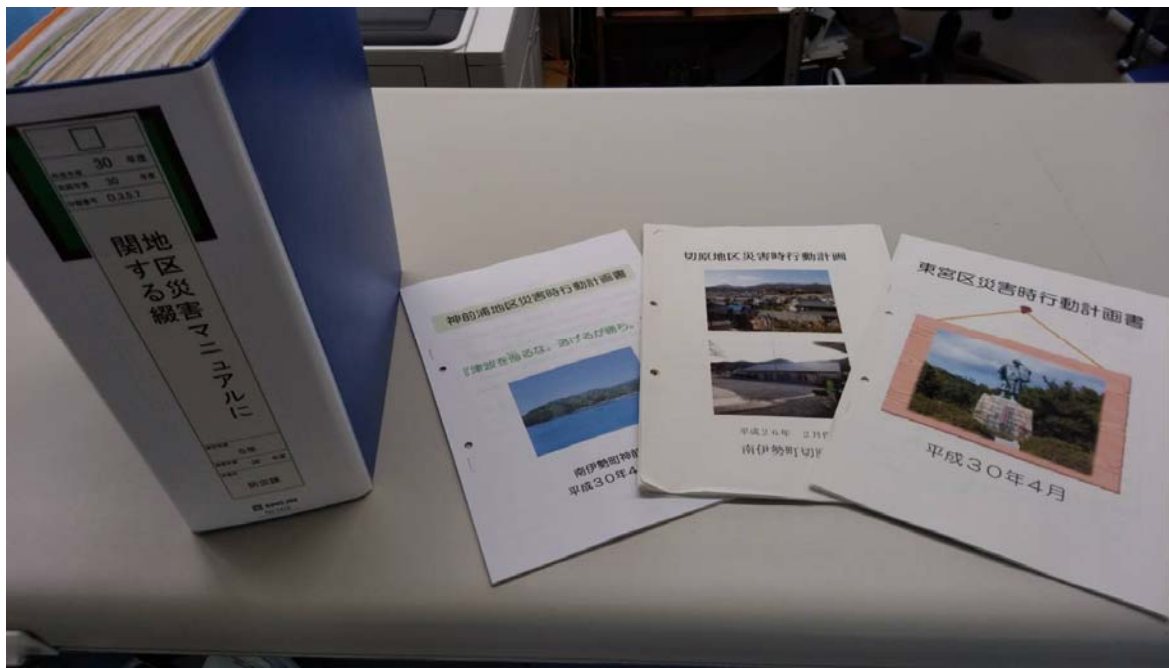


河川断面内に葦が生え川の流が悪くヘドロや土砂の堆積により、通水断面を著しく阻害され、異常出水時には、越水等が懸念されるため、土砂撤去等により健全な流水断面を確保する。

H28・29年度実施済み(L=75.5m C=10,202千円) H30施工予定(L=57.0m C=4,500千円)

● 自主防災組織の強化・活性化（防災課所管）

地区災害時行動計画書 全38地区作成済み



町全地区で自主防災組織(区)が結成されています。

地域づくり支援事業により役場全職員が各38地区の担当に分かれて、災害時における被害の防止または軽減を図るため『地区災害時行動計画書』を作成。

津地方気象台

基準作成の考え方と大まかな流れ

- 基準値は、過去20年分以上の災害発生／非発生時の指数値を統計的に調査して設定する。
- インフラの整備状況は災害頻度や被害規模として現れるので、災害実績に基づき設定する基準値には、その効果が間接的に反映されている（ex.整備が進む等の理由から過去に災害が発生していない地域では、基準値が高く設定される）。
- 下水道や河川堤防の整備状況などが違うため、同じ雨が降ったとしても災害の起こりやすさには地域差がある。基準値はその地域差を表現するものである。
- 基準値の妥当性は定期的に確認・評価（1年に1回、最新の災害資料等を追加して、災害との関係を精査）するとともに、必要に応じ、適切な基準値への見直しを行う。

災害資料の収集整理

- 「水害統計」等をもとに過去20年分以上の災害資料を整理。
- 自治体（都道府県）と協議のうえ、あらかじめ、警報や注意報の対象となる災害を定義しておく。

大雨事例の整理

- 調査期間における毎時の表面雨量指数と流域雨量指数を計算。
- 一雨ごとに災害と指数の値をとりまとめ、大雨事例ファイルとして整理する。

基準値案の作成

- 統計処理（コストロスモデル）により、基準値案を作成する。
- できるだけ少ない基準超過頻度で、多く対象災害を捕捉できるような基準値案を算出する。

基準値案の評価

- 災害捕捉率や適中率といった統計評価をもとに基準値案の妥当性を確認する。
- 基準値の妥当性は定期的に確認評価する。

松阪建設事務所

3) 氾濫水の排水、浸水被害軽減に関する取組

23 洪水氾濫を未然に防ぐ対策(堆積土砂撤去)

・ 河道内に堆積した土砂・河川内の樹木により、流下能力が低下している箇所を解消するため堆積土砂の撤去、河川内の樹木の伐採を実施します。

・ 撤去箇所については、県と市、町で優先度を協議しながら選定します。

堆積土砂撤去の取組事例（平成29年度一級河川宮川河川堆積土砂撤去工事）



伊勢建設事務所

1) 円滑かつ迅速な避難のための取組

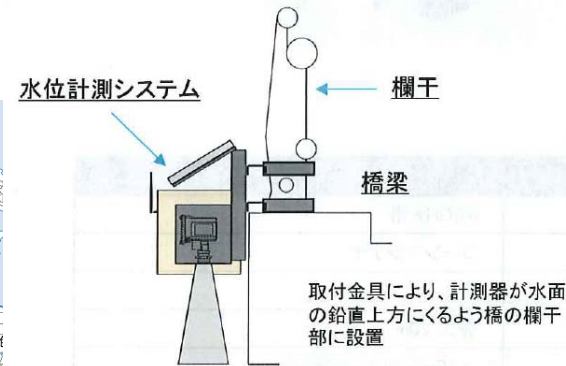
13 危機管理型水位計及び量水標等の整備

- ・ 水防団等が現地の出水状況を確認できるように危機管理型水位計や量水標等の設置を行います。

設置予定箇所



危機管理型水位計設置イメージ



3) 氾濫水の排水、浸水被害軽減に関する取組

22 洪水氾濫を未然に防ぐ対策(河川改修)

- ・ 計画的な河川改修を実施します。

河道拡幅による必要流下能力の確保

